

第27回JAAFコーチングクリニック報告

指導者養成委員会 秋元恵美

2020年度のコーチングクリニックは、新しい生活様式に合った形で講習会を模索した。その結果、「学び続ける指導者のために～多角的にコーチングを考える～」をテーマに掲げ、WEB会議システム（ZOOM）を使用したリアルタイム講義（必修講義）と受講者がそれぞれの興味に合わせて講義を選択できるオンデマンド講義を組み合わせて行うこととした。詳細については以下に示す通りである。

必修講義について

2021年1月11日（月・祝）15：30～17：00に行われ、二つのプログラムが展開された。

一つ目は山本 浩 指導者養成委員長による「広く見る 重心を探る ～求められる指導者の役割～」というタイトルで、現代の指導者には多くのことが求められており、さらには選手の個性を理解しながら指導にあたらなければならない状況であることなどに触れて講義が行われた。

また、二つ目は、指導者養成委員会委員でもある豊田裕浩氏（中央大学）と、豊田氏がコーチとして指導している飯塚翔太氏（ミズノ）を講師として、山本 浩氏コーディネートによる「アスリートの目線とコーチの視点」をタイトルとした対談形式の講義であった。豊田氏の「選手がコーチを選べる時代だから、選手に選ばれるようなコーチでありたい」という言葉が非常に印象的であった。また、お互いの競技に対する考え方を聞くセッションや、動画を見ながら飯塚選手の小学生時代や中学生時代の走りについて解説をするセッションなどもあり、コーチ・選手それぞれの考え方が引き出され、受講者が自身の現場と照らし合わせることのできる内容であった。

選択講義について

2021年1月12日（火）～2月14日（日）の約1ヶ月間に渡り、eラーニングシステムを使用した選択講義（オンデマンド形式）を配信した。今回はそれぞれ異なるテーマの4講義を用意し、講義2つを選ぶAコースと講義全てが視聴できるBコースを設けた。受講者は申込時に講義を選択し、eラーニングシステムにアクセスして、自身の学習画面上に表示される講義ビデオを期間中に何度も視聴ができる仕様であった。

選択講義は、室伏由佳氏（順天堂大学スポーツ健康科学部講師）による「競技生活を医科学的側面から振りかえる」、能瀬さやか氏（東京大学附属病院 女性診療科・産科 医師）

による「女性アスリートの三主徴からRED-Sへ」、中村聡宏氏（一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 会長/千葉商科大学サービス創造学部 専任講師）による「スポーツマンシップを通して世界に通じる人間力を磨く」、そして、井上克俊氏（TSM代表）・高辻真氏（TSM ヘッドコーチ）による「TSM 式クラブ運営・指導の工夫」の4講義であった。講師はそれぞれの方で代表的な方々にご担当いただき、とても充実したものであった。

受講状況と追加開催について

本講習会における参加者は、120名（男103名、女17名）であった。例年、参加者のうち有資格者（JAAF公認コーチ、JAAF公認ジュニアコーチ）は7割から8割程度だが、今回は97.5%と高い割合であった。また、定員に達するのが非常に早く、特に資格の更新研修としての追加定員の希望が非常に多かった。

そのような状況を受けて、日本スポーツ協会と調整し、オンデマンド講義のみでの開催を更新研修として承認を得た。その結果、2021年2月11日（木・祝）～3月14日（日）に追加開催という形で、必修講義（1月11日収録分）を加えたオンデマンド講義配信することとした。こちらについては、有資格者限定で募集をかけ、202名（男175名、女27名）の申し込みがあった。

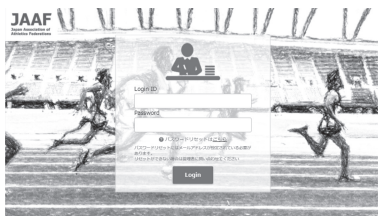
追加開催と併せれば今回の受講者数は322名（男278名、女44名）であった。

受講した指導者からは「リモートでの開催で自宅に居ながら参加できてよかった」や「アスリートとコーチの関係性のあり方について考える良い契機になった」など多くのフィードバックがあった。

所感

今回の開催にあたり、1月7日に政府による2回目の緊急事態宣言が出されるなど、直前までコロナ禍による開催の検討が続いた。特にライブ講義については飯塚選手の健康面を考慮し、急遽、自宅からの接続を依頼し、日本陸連のオフィスと繋いでの講義が展開された。社会状況の変化に伴い、オンラインの選択肢が新たに入ったことが逆に功を奏したと言える。

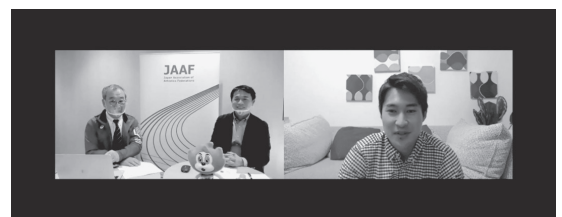
日本陸連の指導者養成指針が11月に策定され、学び続けるコーチシステムの再構築を着手していく中で指導者養成委員会はこのコーチングクリニックが重要な役割を持つと考えている。特にリモート形式の講習会は、移住地に捉われず、また世代や性別なども関係なく受講できるため、受講者の学びの場として選択肢が広がる。今後の社会状況次第ではあるが、従来通りの集合形式による講習会の開催を目指しつつ、今回のようなリモート形式を導入した講習会の積極的な計画・実施をするとともに、そうした学びの機会を多くの指導者に知ってもらい、女性指導者を含め更に多くの方々に参加してもらえよう、考えていきたい。



JAAF eラーニングシステムのログイン画面



JAAF eラーニングシステムの学習画面例



必修講義「アスリートの目線とコーチの視点」の様子